

「学生応援!100円朝食プロジェクト」

静岡大学未来創成基金を活用した学生支援事業として、静岡大学と静岡大学生協組合は、2024年5月7日～17日、静岡・浜松の両キャンパスで、「学生応援!100円朝食プロジェクト」を実施しました。



物価高騰が、学生生活に影響を与えている状況から、「学生には元気に一日のスタートを切ってもらい、生活のリズムを整えて、健康的に学生生活を送ってほしい」との想いを込めて安価に朝食を提供する企画です。

朝食セットとともに手渡されたカードには、学長メッセージと二次元コードが掲載されており、学生から基金にご寄附いただいた皆様への感謝のメッセージなどが211件寄せられました。

“留学のための、英語の学習を頑張っています!
朝食ありがとうございます。美味しかったです。
今日も1日、がんばります!”

“この度はご寄付いただきありがとうございます。
進学したいと思っている大学院に向けて
勉強を頑張っています。”



静岡・浜松の両キャンパスで
平日の9日間実施しました。



今後も静岡大学未来創成基金を原資とした” 静大生を応援する企画”
” 静大生と支援者をつなぐイベント” を実施していきます!温かいご支援をお願いいたします

静岡大学未来創成基金ウェブサイト <https://kikin.adb.shizuoka.ac.jp>

静岡大学広報・基金課 基金係 電話:054-238-5183 E-mail:kikin@adb.shizuoka.ac.jp

未来創成基金へのご寄附は、郵便振替やインターネットからの申込み(クレジットカード・コンビニ決済等)をご利用いただけます。

ご寄附をいただいた皆様のご芳名を、ウェブサイトに掲載しています



校友会組織 「静岡大学 ゆかりの会」 入会のご案内

在学生・保護者をはじめ、卒業生・企業など静岡大学と”縁(ゆかり)”のある方をつなぐ協力・応援ネットワークです。会員同士もつなぎ、未来創成の輪を広げていきます。

対象 どなたでも入会できます。

活動内容 静岡大学内の最新情報を集約し、メールマガジンで配信します。

- ・最新の研究成果
- ・企業や地域との連携
- ・学生や教職員の活躍
- ・セミナーやイベントのご案内

会員募集中!



会員登録はこちらから
(メールマガジン登録)

アンケートにご協力ください

静岡大学広報誌「SUCCESS」vol.32の誌面に関するWEBアンケートにご協力ください。抽選で10名様にA6オリジナルノート1冊をプレゼント!当選者の発表は、商品の発送をもってかえさせていただきます。



※絵柄は
選べません



左記二次元コードにより
アクセスいただき、
WEBにてご回答ください。
応募締切:2024年12月31日(火)

編集後記

今号では、本学と地域の小学校・中学校・高校が連携した取り組みを紹介しました。いずれも、お互いに学びを得ることができる、まさにWin-Winの取り組みです。今回掲載したもの以外にも幅広く取り組んでいます。今後もウェブサイトに掲載しますので、最新情報をぜひご覧ください!



静岡大学 広報誌 SUCCESS 2024 秋号 発行日:2024年10月1日 発行:静岡大学 総務部広報・基金課 広報係 <https://www.shizuoka.ac.jp/>

SUCCESS

静岡大学広報誌 サクセス

特集

最先端の研究を活かした 静大の防災教育

／子どもたちの未来を応援したい!「知と人材の拠点」として教育現場で貢献



Autumn 2024



企画展「しずおか家具の森」の関連記事は14ページへ!

静岡大学広報誌 サクセス

特集
静岡大学には、防災に関する教育や科学研究を総合的に展開する「防災総合センター」があります。能登半島地震、各地での豪雨災害など自然災害が多発し、南海トラフ地震も危惧される中、本学の防災教育、防災科学研究、地域活動について、防災総合センターを中心に紹介します。

静岡大学の防災教育

最先端の研究を活かした



学ぶ

理学・工学・行政・
情報学・経済学・
医療など幅広く



プロフェッショナルの 多彩な講義が魅力！ 「地震防災」(全学教育科目)

行政の実務を担う静岡県職員や災害現場の取材経験を持つ報道関係者など、本学教員のほかに、数多くの専門家が講師となり、災害のメカニズム、被害軽減の技術、社会的な制度など、防災について多角的に学ぶことができます。2023年度は435名の学生が履修しました。さらに今年度後学期から、全学教育科目「大規模自然災害の科学」が開講。自然災害の発生原因の科学的理解や調査方法を学び、各学生が専門分野の研究で防災的観点を活かすことが期待されています。



静岡大学防災マイスター 称号を授与 -特別教育プログラム-

災害時の自己や他者の生命、災害後の生活を守る上で有用な最低限の防災知識・スキルの獲得を目標として、所定の科目を修得した学生に称号を授与。修了対象者は、静岡県の認定講座受講により、県知事認証「ふじのくに防災マイスター」の称号も得ることができ、地域防災力の充実・強化に貢献しています。

探る

最先端の技術や
理論を究める研究

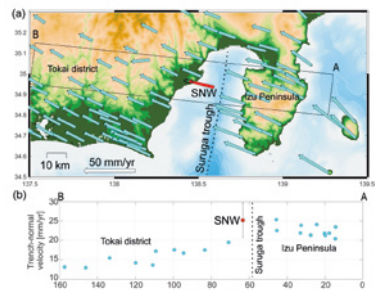


プレート境界地震の 準備過程のモニタリング (地震物理学)



理学部 地球科学科
生田領野 准教授
(防災総合センター副担当)

プレート境界地震の準備過程における地殻の応力-歪み状態の観測や海底地殻変動観測手法の開発を目指して研究しています。駿河湾や沖縄先島諸島での海洋調査や地層調査を自ら行い、巨大津波発生メカニズムなど、海溝型地震の多様性について研究を続けています。



地殻変動の速さを矢印で示した速度ベクトル図



地殻変動観測のための海洋調査

防災総合センター長北村晃寿教授
(理学部／写真左)と副センター長牛山素行教授「地震防災」の授業を受ける学生たちとともに。



復興を地域のなかで、 地域とともに考える (地域社会学)



情報学部
情報社会学科
望月美希 講師
(防災総合センター副担当)

災害からの復旧・復興に向けて人々の間でどのような動きがあるのか、地域社会学の視点から現場の事象を捉え、復興課題の解決や今後の災害対策への貢献に向けた調査研究と実践的な活動を行っています。2022年9月台風15号被害が発生した際は、研究室の学生有志で、ボランティア活動を実施しました。特に大きな被害を受けた静岡市清水区で中長期的な災害支援拠点「ふらっと」が立ち上がると、NPOや市民ボランティアとともに、子どもたちの居場所づくりや夏祭りなど地域の賑わいづくりに向けた活動に携わりました。



学生による災害支援拠点「ふらっと」での学習支援活動

高精度3次元画像計測を 災害の予兆検知につなげる (画像計測工学)



工学部 電気電子工学科
橋本 岳 教授
(防災総合センター副担当)

屋外遠方にある対象物の微妙な動きを高精度に計測できる独自画像計測技術を応用し、立ち入り困難な土砂災害警戒区域の微小変化を計測し予兆を検知するシステムを開発しています。実験では100m先の変化をミリ単位で計測ができました。さらに、画像計測技術の応用として、インフラ構造物の健全性評価のための橋梁等のたわみ計測、コンクリートのひび割れ検出についても研究中であり、工学の防災への応用に鋭意取り組んでいます。



離れた場所でも災害の予兆を検知する装置の試作機

広げる

大学の知見を、
もっと地域へ、
社会へ、次世代へ



ふじのくに防災フェロー 養成講座 -静岡県との連携事業-

行政機関や指定公共機関等で防災に関する実務に従事している方を対象に2010年度から講座を開講。実践的応用力を身につけた中核的防災実務者の育成を目指し、これまでに111名が静岡県知事認証「ふじのくに防災フェロー」の称号を授与されています。講義は、防災総合センター担当教員及び客員教員(国内専門家)が務め、研究指導も行っています。

高校生を対象とした防災教育事業 BOSAIユースアンバサダー プログラム

教育学部 藤井基貴准教授の研究室では、学生が防災の知識を高校生に教え、それをもとに高校生が防災と遊びを掛け合わせた「防災遊び」を考案し、子ども向け防災講座を企画・実施しています。静岡県、愛知県、宮城県などの高校で導入され、防災教育のネットワークづくりに貢献してきました。地域及び次世代に防災を伝え、広げることを目指しています。



藤井准教授(防災総合センター副担当／下段中央)と制作した防災教材を持つ研究室のメンバー

子どもにも楽しく
避難の重要性が
伝わる防災紙芝居



受講生の方からのコメント



2024年度受講生 山本貴之さん

(静岡県危機管理部危機政策課勤務
／2015年3月静岡大学人文学部卒業)

静岡県は地震・津波・富士山火山・洪水など多くの災害リスクを抱えています。私は普段、静岡県危機管理部で防災対策の推進を図るための業務を担当しています。本講座を受講したのも、防災分野に精通し多くの知見を有している先生方のお話を伺い、どうしたらよりよい普及啓発ができるか、実効性のある防災対策ができるかの参考にしたいと考えたからです。2024年1月に発生した能登半島地震では、半島災害ということで伊豆半島でも起こり得ることが顕在化しました。そういった課題に立ち向かっていくためにも、本講座で広く研究し、仕事に活かしていきます。

子どもたちの未来を応援したい！ 「知と人材の拠点」として 教育現場で貢献

静岡大学は、国立大学ならではの知見と人材を活かして、県内の小・中学校、高校と連携・協働しています。
いま、子どもたちが直面している課題の解決や、将来の可能性を広げる活動など、
さまざまなテーマを通して、本学の研究者、学生たちも学び、教育・研究の進化につなげています。

レジリエンス (精神的回復力)

困難な状況から立ち直る力を身につける授業を実践

教育学部的小林朋子教授は、2013年から学校との協働で始めた「子どもたちのレジリエンスを育てる活動」を、現在、静岡県内を中心に多くの学校に広げています。附属静岡中学校との実践は、ジャパンレジリエンスアワード2023を受賞しました。社会の変化が早く予測困難なVUCA時代に、将来にわたって一人ひとりの「生きる」を支える力になることが期待されています。

事例 2022年度からSEL (Social and Emotional Learning) として特別講座を開設した静岡学園中学校・高等学校では、小林教授が心技体の3つで構成されるレジリエンスについて、実践法を身につける授業を行っています。



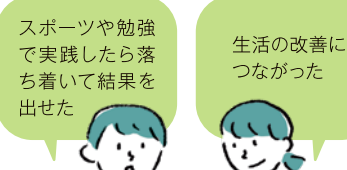
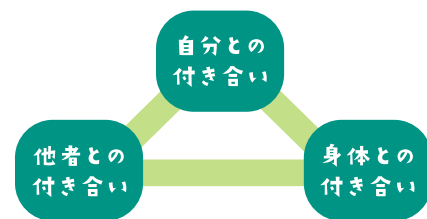
※写真提供：静岡学園中学校・高等学校

VUCA時代を生きるために 必要な力を楽しく学んでいます

小林朋子

教育学部 教授 子どもレジリエンス研究所所長

学校での実践の中で、教師による授業だけでなく、子どもたちが先生役になって、同級生に授業を行うという子どもの主体性を活かした取り組みもしています。ストレスは時代や環境とともに変化しており、その対処法を、子どもたちが主体的に学べるよう現場の先生方と一緒に考えています。



キャリア教育 (将来に向けて)

「働く」イメージを地域企業とともに伝える活動

本学の学生支援センターには、「キャリアサポート部門」という組織があります。キャリア教育の専門家であり、多くの地域企業とつながりがあることから、中高生が将来の仕事のイメージを持つ重要性に目を向けるプログラムを学校と連携して企画しました。

事例 静岡市立南中学校の2年生約160名対象の「中学生を地域企業で育てるキャリア教育プログラム」では、静岡市内の企業13社の協力を得て職場体験としての工場や現場見学、説明会を行いました。

- 働く大人の姿に触れる機会を創出
- 社会に役立つことをしているという誇りや仲間と達成感を分かち合う喜びを想像
- 将来、地域で働き、成長していく自分の姿を思い描けるようになる

どの会社も地域とつながっていて、みんなの暮らしを支えていることがわかった
働くことへの印象が変わった



株式会社駿河生産プラットフォームにて

受験勉強をする前に考えてほしいこと・理解してほしいこと

宇賀田 栄次

学生支援センター キャリアサポート部門 教授

大学見学に来訪した高校生には、高校と大学との違いを解説し、大学進学を「目的」とせず、日々の学校生活で心がけてほしいことを伝えています。

また、自分の将来や社会にも目を向けて、誰の、どんな困りごとを解決したいのかも考えた学部選びを示しています。



プログラミング (動きを指示する)

児童・生徒が理解し、実践しやすい教え方は？

情報学部地域連携推進室では、近隣の学校と連携して、ICTを活用した教育の推進に取り組んでいます。また、同学部の遠山紗矢香准教授の研究室では、プログラミングを学ぶ初心者が学びを深めるためにどのような支援が有効か、その方法を研究しています。



キャラがジャンプするように変えてみたら？

小学生がもっと楽しく学べる方法は？

ボランティアで児童生徒の学習を支援しています



情報学部地域連携推進室の事例

学生が、浜松市内の公立小・中学校にボランティアとして出向き、児童生徒のICTを活用した学習をサポートしています。わかりやすい講座を作るための経験が、学生たちの学びを深めています。

ICTを活用した教育方法を 学習者目線で開発しています

遠山紗矢香

情報学部 准教授

学校ではデジタル端末が文房具と同じように使われている中、児童生徒や学生が主体的に学び、できることを増やす方法の開発を進めています。誤答を手がかりとすることで、どのように支援をすればよいのかを効果的に検討することができます。



グローバル (世界とつながる)

子どもたちの英語力向上、国際交流をサポート

グローバル人材の育成を目指し、学生たちが地域の子どもたちに英語を教える場を創出したり、ITを活用し、海外の学校と県内の学校を結んで国際交流を行うプログラムなどに取り組んでいます。

磐田市の地域の人々と連携して 子どもたちに英語を指導

事例 2002年から教育学部と磐田市の地域の人々と連携し、英語教育専修の学生が、毎週土曜日に年長児から小学校6年生までを対象とする「しきじ土曜倶楽部」で、英語と総合学習の指導を行っています。毎回チームを組んで、創意工夫しながら授業づくりに取り組んでいます。



遊びの中から英語を学べるように

挑戦意欲を身につけたり、感動したり、友だちをつくったりできる時間に！

タイの学校と静岡聖光学院の 生徒の国際交流を支援

事例 教育学部、教職大学院、人文社会科学部の学生・大学院生と教育学部英語教育専修の大龍綾乃講師は、静岡聖光学院中学校・高等学校で行われたプロジェクト『メタバースを活用した探究／協働学習・リモート国際交流の実践』に参加。同校の生徒とタイ王立 Vajiravudh Collegeの生徒が同じメタバース空間に入り、英語で交流しました。



本学の教員や学生はファシリテーター役として円滑な交流を支援

実施に向けては情報学部の遠山研究室が協力しました

※写真提供：静岡聖光学院中学校・高等学校

研究最前線 学術文化の継承と発展、 人類の「知」に貢献する

グローバル共創科学部
国際地域共生学コース 助教

ピーターズ マイケル
Michael K. Peters



教員ウェブサイト



成功した人生とは何か？ 日本に来るケニア人ランナー

日本では、多くのケニア人ランナーが高校、大学、実業団で活躍しています。ケニアでは、個人の幸せの追求よりも、周りの人に貢献することを重視する価値規範があり、海外へ出るアスリートにはそれがより強く期待されます。つまり、来日した彼らが目指すのは、日本の駅伝大会で優勝すること(選手としての名声)だけではなく、経済的利益や社会的地位を得て、母国の家族や友人、コミュニティの生活を向上させることなのです。私は、そのようなケニアの価値観を持ちながら日本で活動する彼らの考え方や行動について、性別や所属先による差違も含めて研究しています。



プロバスケの帰化選手についても研究しています。所属学部のフィールドワーク「コラボラティブ・ワークス」ではスポーツのワークを担当しています！

日本特有の海辺のイメージ 「洲浜」を探る

「洲浜」という海辺を指す言葉があります。この言葉は、現実の海辺でなく、日本文化の中で共有される理想的な海辺のイメージを表す言葉として使われてきました。昔から日本文化のさまざまな場面で、洲浜のモチーフは見られ、平安時代の和歌の場面や、中世には庭園や絵画で極楽浄土を描く際にも使われました。私の研究の特長は、古い文献や図像をもとに、洲浜について、文学・美術・庭園・宗教など、分野横断的にアプローチしているところです。洲浜は「白砂青松」で示される海辺とも近いのですが、今は「白砂」から発展して、「白」という色そのものの研究を行っています。



三保の松原があり、羽衣伝説が残る静岡は、洲浜の問題を考えるのに良い環境です。この風土にいて、実際に海辺にふれることで、新たに発見できるものがあります。

人文社会科学部 言語文化学科 准教授

原 瑠璃彦
HARA Rurihiko



教員ウェブサイト

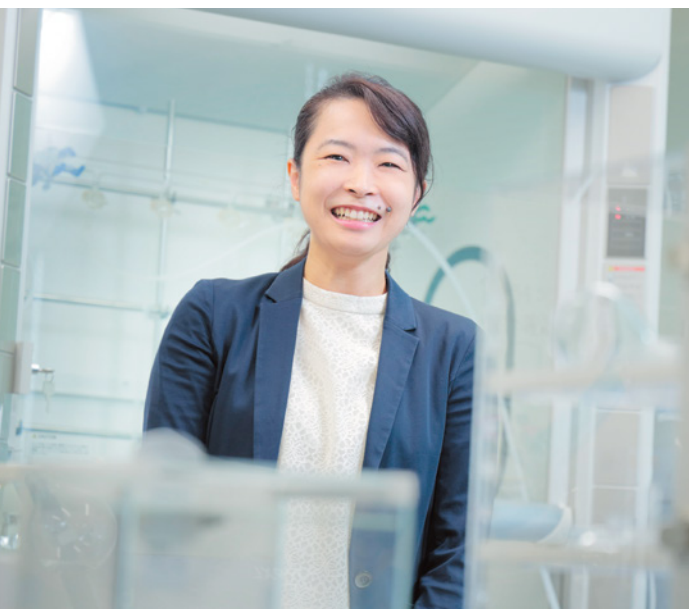


工学部 化学バイオ工学科 准教授

織田 ゆかり
ODA Yukari



教員ウェブサイト



高分子材料の表面・界面を 解明し、設計する

私たちの身の回りで、高分子材料はさまざまな環境下で用いられています。そこには、高分子固体が異種相(空気や液体など)や異種材料(金属、異種高分子など)と接する「表面・界面」が存在します。濡れ性、潤滑性、防汚性、接着特性など、さまざまな表面・界面特性を制御するには、高分子の表面や界面の状態を正しく理解し、適切な分子設計を行うことが重要になります。例えば、九州大学との共同研究では、接着界面の形成機構を可視化しました。現在は、運動性の高い高分子が膜の表面に集まりやすい特性を利用して、高分子膜の濡れ性を自在に制御する新しい手法の開発を進めています。

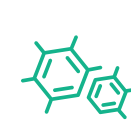


プラスチックやゴムなどの高分子材料は、私たちの生活を豊かにしてくれます。未来のために、より省エネルギーで省資源な機能性高分子材料のもののづくりを研究しています。



研究 PRESS RELEASE

研究成果を発表して報道されたものをご紹介します
2024年3月～2024年7月



長尾 遼(農学部)「Acaryochlorisの光化学系I複合体の特性解析」他1件発表
橋本将典(農学部)「藤枝フィールドで有機堆肥の機能性評価による新たな知見の創出を目指す研究を開始」
一家崇志(農学部)「プラズマクラスター技術が寄与する植物の生育促進メカニズムを確認」
ルグラン ジュリアン(理学部)「岩手県から日本最古の植物化石を発見」
塩田真吾(教育学部)「学校でのケガの当事者意識を促す安全教育プログラムの開発」他2件発表
野口良史(工学部)「ホタルの発光メカニズムを探れ！ルシフェリン分子の構造変化を解明」
兼崎 友(静岡共同利用機器センター)「3-クロロ安息香酸分解細菌の全ゲノム配列解読ー公開講座参加高校生との共同研究ー」
今泉文寿(農学部)「森林の成熟は土砂災害を大きく減少させる」
江草智弘(農学部)「活発な林業活動は、森林による炭素隔離量を増加させる」
宮崎 真(情報学部)「タイミング学習における身体部位特異性」
日下部 誠(理学部)「胃を持たない魚類が収斂(しゅうれん)的に失った遺伝子を特定」
間瀬暢之(グリーン科学技術研究所)「フェアリー化合物の短段階合成手法の開発」
北村晃寿(防災総合センター)「静岡県熱海市伊豆山港沖に流出した盛土の底質と有孔虫群集への影響調査」
徳元俊伸(創造科学技術大学院)「ゲノム編集により高度透明化金魚の作出に成功しました」
川本竜彦(理学部)「海洋マントルにおける小スケール対流の証拠検出」
峰野博史(情報学部)「生成データ拡張手法でメロン等級判定AIの精度向上を実現」

「挑戦を楽しむ」研究職として成長を続けたい

こう けつ
黄 潔 さん

工学部
総合科学技術研究科工学専攻
創造科学技術大学院 自然科学系教育部
環境・エネルギーシステム専攻
(2019年3月卒)
三菱重工業株式会社(研究職)勤務

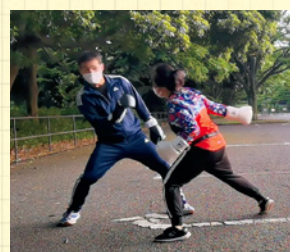
1988年生まれ、中国国内の高等学校卒
趣味は料理、ボクシング、登山。
好きな言葉は「解決方法はいつも困難より多い」。

モノづくりのまち・浜松にある工学部へ

工学部が位置する浜松市には有名なモノづくり企業が多く、インターンシップや産学連携の機会が豊富で、将来のキャリアに役立つと考えました。私は、静岡市内の日本語学校で学んでいたため、静大の情報も入りやすく、地域に慣れ親しんでいたことも静岡大学を選んだ理由の1つです。

学会経験などを重ね、
中国人留学生学友会長も務めて

大学時代、多くの海外会議や国内学会に参加して発表や論文作成したことが、入社後の分かりやすい資料作成や効果的な社外向け発表につながっています。今夕な仕事にも柔軟に対応できるのは、先生の厳しくも温かい指導で、プレッシャーのある状況下でも前向きに取り組む力が養われたおかげです。

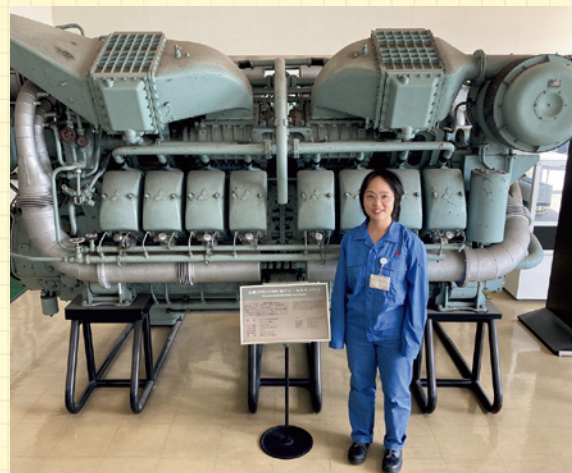


ボクシング、おもしろいです

大学の中国人留学生学友会長を務め、大使館への予算申請やイベントのアレンジをして、意見をまとめ、スムーズに実行する力も向上しました。この経験で得たコミュニケーション能力も、仕事に大いに役立っています。

車用ターボチャージャーの
騒音対策などに取り組む

現在、車用ターボチャージャーの振動と騒音の対策に取り組んでいます。500以上の製品を扱っており、一つの製品に縛られず、さまざまな製品に触れられる点が魅力です。研究職になってよかったのは、技術や未知のことを追求する優秀な研究者たちと共に成長できることです。彼らの熱意に刺激され、



職場で、ディーゼルエンジンと一緒に

自分自身も常に学び続けています。仕事のやりがいを感じるのは、研究結果が他者から感謝された時や、長年の課題を解決した時です。そうした瞬間に、自分の努力が実を結び、社会に貢献できていることを実感します。

学生の皆さん、思い切り挑戦しましょう！

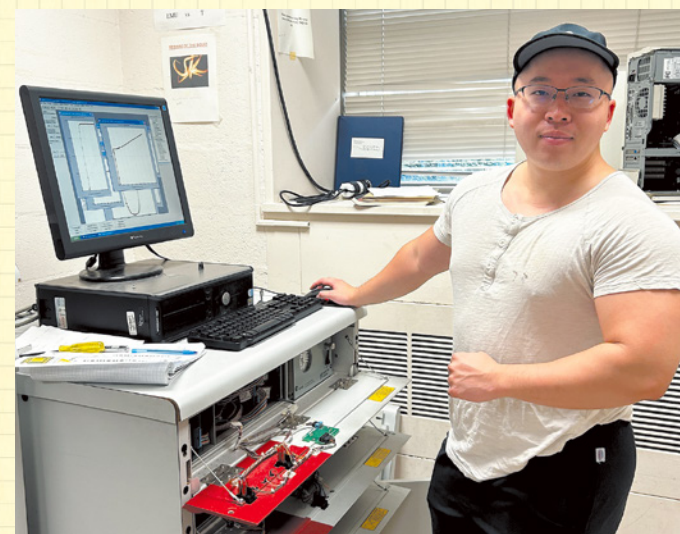
静大に入学して、面倒見の良い先生や優秀な学生に多く出会うことができました。加えて、失敗を恐れず、頑張る学生が多いことも魅力だと思います。私は、そういった先生や学生のいる、自由な挑戦の風土の中で、思い切り試行錯誤できたおかげで、実践的なスキルと独立した思考力を培うことができ、大きく成長しました。学生みなさん、挑戦を楽しんでください！



趣味の登山も楽しんでいます



黄さんが学んだ工学部、総合科学技術研究科工学専攻、自然科学系教育部について、くわしくはこちらから(左から順に) →

世界を見て学ぼう！
多様な人との交流で深める研究よし むら こう た
吉村 恒太 さん

理学部
物理学科
(2021年3月卒)

ノートルダム大学(アメリカ)
物理学専攻
博士課程学生

1998年生まれ、愛知県立豊田高等学校卒
趣味は筋トレ、釣り、パズル、熱帯魚観賞。
好きな言葉は「遊ば」。

高校時代の留学を経て、静大へ

高校生のとき、サウナと寒中水泳に興味を持ち、フィンランドに1年間留学しました。この経験で、日本がいかに恵まれているかを実感するとともに、他の国も見てみたいという思いも芽生えました。進路を考える中で、静岡大学の理学部・創造理学コースを知り、2年次から専門科目を選べ、また海外研修などもあるところが、私にピッタリだと思いました。



1年前、フィンランドに戻ったときに再会した友人と

物理学の勉強をがんばった学生生活

物理学科では、先生が学生たちの質問に多くの時間を割いてくださったことが印象的です。特に、先生たちが毎回参加する輪読は貴重な時間だったと改めて感じます。英語でのプレゼンテーション授業も多かったため、今もプレゼン資料作成に役立っています。また、2年生のときに、全国の学生が集まって物理学や数学を合宿形式で学ぶ数物セミナーに参加し、物理学の面白さを感じるなど、物理学の勉強をがんばった大学生活でした。

香港の大学での実習を機に、
海外の大学院へ

アメリカの大学院に進むことを決めたのは、在学中の香港科技大学での実習で、現地学生との交流を通して、何かに挑戦し

たいという意識が強くなったのがきっかけです。大学での多くの実験や授業を通じ、物理学への興味も深まり、せっかくなら、世界中の学生が集まるアメリカの大学院に進学し、多様なバックグラウンドを持つ人々と交流しながら、研究を続けたいと考えようになりました。

大変だけど喜びも多いアメリカでの
研究の日々

現在は、一日中研究に取り組んでいます。二次元超伝導体の試料作成とそのトランスポート実験を行っており、試料作成は大変ですが、作ったサンプルが超伝導を示したときの喜びは計り知れません。また、世界中の国から来ている人々と出会い、その人たちの文化を体験することで、多くの知識を得られていることは、アメリカに来てよかったことの一つです。



誕生日に友人たちと

世界を見ましょう！
授業では積極的に質問を！

学生の皆さんには、ぜひグローバル研修などを通してもっと海外に留学したり、旅行したりして、世界中の文化を学んでほしいと思います。自分の価値観が大きく変わることは間違いありません。また、アメリカに来て、学生たちの質問の量に驚きました。みなさんも、授業中にどんどん質問して、多くの知識を得てください。



ワシントンでのボディビル大会



吉村さんが学んだ理学部について、くわしくはこちらから →

学生として
静大の魅力
をPR!



しずだいPRサポーター
丸山桜さん

PRサポーター
については、
こちら



しずだいPRサポーター
グエン ヴィエト クオンさん

見つけた! 輝く静大生

部活動、研究、地域との連携...

静岡大学にはそれぞれの場所で挑戦を続ける学生がたくさんいます。

—— わたしたち、**静岡大学公認** になりました! ——

静大では115サークルが活動中。今年新たに公認されたサークルをご紹介します。

ピアノが好きで興味があれば入団OK!

静岡大学
ピアノサークル



多岐にわたる活動

ピアノの演奏はもちろん、ピアノ文化を知り共有する活動を行っています。入団条件は「ピアノが好き or ピアノに興味がある人」に限定し、大同団結を目指しています。

普段の練習は完全裁量制で、弾く曲のジャンルも完全自由。ピアノを聴く・ピアノ文化を発信するだけでも団員として活動できます。月1回程度イベントを行い、他大学の学生とピアノを通じた交流やピアノメーカーへの見学など浜松市の地理的特徴を活かした活動も展開しています。静岡日仏協会のオファーで3月8日に行われたプロピアニストのバトリシア・パニーさんのリサイタルを、広告からチケット予約システムの構築、会場運営まで学生達でプロデュースするという貴重な経験もさせていただきました。ピアノ文化を人々へ広げる貴重な機会となりました。



バトリシア・パニーさん
(写真中央)のリサイタルを
浜松医科大学ピアノ同好会と
ともにプロデュース!

100年続く団体を目指して

ピアノは孤立しがちな楽器ですが、演奏だけでなく文化的に同調し合える仲間を得られることは何よりも楽しいことです。ピアノを通じて、



浜松市のピアノメーカー「遠州楽器」を見学し、
ピアノを試弾

技術だけでなく、文化的理解、多様なバックグラウンドを持つ部員への相互配慮など、精神面での成長にもつながっています。学業や研究をしながら無理なく活動が続けられ、大学公認ピアノサークルとしてピアノ文化へ良い影響を与えられる活動を展開していきたいです。「ピアノというものは狂おしい。」

活動場所 浜松キャンパス佐鳴会館ホール
課外活動棟器具庫5-3
(水・金・日のみ)

活動日時 個人の完全裁量制



WEB



技術を磨いて観客を笑顔に
お笑いサークル
「ザブトン」

公認



お笑いの力で地域を盛り上げる!

よく「お笑いサークルって何してるの?」と聞かれます。普段は各々が自由にネタ作りや大喜利、お笑い談義、持ち込み企画(田中ポエムクイズなど)をしています。大会やライブが近づく真剣にネタを合わせています。これまで静岡駅近くのカフェでライブをしたり、児童館

経験者・未経験者も大歓迎!

女子サッカー部

公認



全力でサッカーに熱中できる環境

練習は火・水・金・土曜の週4回。ランニングからスタートし、ゲームまで約2時間、全員でコミュニケーションを取りながらサッカー技術の向上に努めています。

今年度は、全日本女子サッカー連盟に加盟。

やお祭りで地域に密着した活動もしてきました。ネタを披露して、お客さんが笑ってくれた時の喜びは何にも代えがたいです。

入部当初はネタだけで精一杯だった部員たちが徐々にその場を楽しめるようになっていきます。サークル内でのバトルライブで仲間が面白い!と褒めてくれると励みになります。

部員数は36名、もっと知名度UP

最初は部員集めに苦労し、SNSで呼びかけても集まったのは6名だけでしたが、静大祭への出演や大学公認化などで外部の営業依頼が増えて知名度も上がり、現在は36名で活動しています。今後も長く活動していけるよう基礎を固め、後輩の世代へ引き継いでいきたいです。感謝を忘れず、一件一件全力で取り組み、もっともっと静岡県内での知名度を上げ、将来的には地域に根付いたお笑いサークルとして活動していきたいですね。

高校と合同のサッカーリーグであるLiga Studentに加え、東海リーグにも参加します。指導者の充実や人工芝のピッチなど、サッカーに懸命に取り組める環境が整っているのが女子サッカー部の魅力!その環境の中でサッカーができることがやりがいです。練習終わりに部員同士でご飯に行ったり、オフの日に遊びに行ったりするのも楽しいです。大学からサッカーを始めたメンバーもあり、スポーツ歴や運動能力は異なっているので、個人のレベルに合わせた練習メニューを考えたり、経験者が教えたりするなど、工夫して練習に励んでいます。

インカレや皇后杯にも挑戦したい!

大学公認となり、より多くの大会に出場できるようになりました。今後多くの試合を経験し、将来的にはインカレや皇后杯に出場できるよう、強く、大きいチーム作りに努めていきます。



毎年11月に行われる静大祭へも
出演しています

月1回程度、静岡キャンパス学生会館にて定期ライブを開催していますので、ぜひ一度見に来てください!一緒に静岡のお笑いを盛り上げていきましょう!

活動場所 静岡キャンパス 共通教育B棟

活動日時 毎週水曜 18:00~

質問・依頼
はDMまで

出演依頼も大募集!
YouTubeでネタやってます



Instagram



また、静岡大学の名を背負っている自覚を持ち、地域の方に応援していただけるような活動も

していきたいです。サッカー経験の有無に関係なく、興味のある方はぜひサッカー場にお越しください!一緒にサッカーができることを楽しみにしています!

活動場所 静岡キャンパス
サッカー・ラグビー場
多目的コート

活動日時 (火・水・金) 18:00~20:00
(土) 9:00~11:00



Instagram

運動できる服装で
来ていただければ
いつでも体験可能です!



地域で活躍する静大生

寮生が町の一員に! 祭りで活躍



浜松キャンパス「あかつき寮」の寮生が、浜松まつり2024の「凧揚げ」に蛸塚町の一員として参加しました。昨年の倍以上の延べ27人が参加し、町内の皆さんとともに懸命に糸を引きました。学生たちからは、「このような機会がありうれしい。仲間と協力してやり遂げられた」寮に入り、浜松の祭りを満喫できた。楽しそうに活動する町内の方の姿を、私たちも目指したい!などと声があがりました。

動画で伊豆市の魅力を発信中!



地域創造学環とグローバル共創科学部は、スルガ銀行・伊豆市と連携し、伊豆市の魅力あふれるジオサイトをe-bikeで巡り、各地の魅力を動画で発信する「自転車で巡る伊豆市ジオサイト」を開始!紹介動画の編集は学生が担当し、スルガ銀行のSNSなどを通じてシティープロモーションに活用します。

花壇をチームカラーのオレンジに!



農学部附属地域フィールド科学教育研究センターは、2012年に包括連携協定を締結した株式会社エスパルスと連携し、清水エスパルスのホームスタジアム「IAI日本平スタジアム」場外の花壇に、チームカラーのオレンジの花が咲き誇るよう「アイスタ花壇オレンジ化プロジェクト」を開始しました。今後も学生が定期的に観察し、より良い花壇となるよう管理していきます。

LGBTQフレンドリー企業MAPを製作!

性的少数者も自分らしくいられる居場所作りを目標に活動しているLGBTサークルgrandiose(グランディオーゼ)が「LGBTQフレンドリー企業一覧 静岡おまちMAP ウェディング編」を製作しました。当事者の中には個別の問合せをすることさへ躊躇する方もいる現状から、地域版の一覧表製作を目指し、学生たちはアドバイザーの宇賀田栄次教授(学生支援センター)らとともに企業を1社ずつ訪問し、今回11店舗の賛同を得て実現しました。



静岡市のパートナーシップ制度で宣誓した同性カップルに配布するほか、静岡市や東京都の施設でも置かれています。

情報学部行動情報学科 福田研究室

「意味がわかって判断・行動できるAIは作れるのか？」や「そうしたAIを作ることができたときに、それらは人間を含めて互いに分かり合えるのか？」というようなことの探究につながる基礎理論・応用技術をいろいろと作っています。

学部生:6名/院生:10名 うち留学生が7名



福田直樹 教授



学部・院生問わず 積極的に国際会議等に挑戦し、 採択されています

研究室としてのテーマはもちろんありますが、所属学生の自由な着想に基づいた研究を行うことを広く推奨しています。学生たちの対外・国際発表を積極的に支援しています。



国際会議 IIAI AAI
2023-Winterにて、
Best Paper Award
として表彰されました
(修士2年)

こんな研究やっています！

超高速&大規模にも対応

組合せオークション 近似実行技術

組合せオークションとは、単品だけでなく、複数の品の組合せ(セット)でも、入札が可能なオークション形式です。それを、超高速&大規模な組合せでも処理する技術をもとに、メカニズム・近似アルゴリズムを改良。高度で大規模な無線帯域割当問題などにも適用できます。また、他の社会課題へ効率的に対応するアルゴリズムの開発なども行っています。

大規模高度マルチエージェントを採用した

交通シミュレーションのための 基盤の高スケーラビリティ化

交通分野において、交通状況の分析や新しいシステムを導入した際の影響を調べるために、エージェントシミュレーション(人間の行動モデルを取り込んだシミュレーション)が利用されます。スケールの大きさが重要な要素で、処理が膨大になるため、大規模化は容易ではありません。それを大規模&高速に実行する実装基盤を開発し、予算・コストの効率化も加えるなど、その高スケーラビリティ化(拡張性を高くする)基盤の研究開発を進めています。

世界で注目されるLODで

意味情報の検索・出力が高速で できる技術の開発

Web上で公開データ同士をリンクし、誰でも利用できるよう公開される、Linked Open Data(LOD)が国内外で注目されています。LODでの意味情報の検索などは、場合によって処理に大きな負荷がかかります。推論の解を近似的に求める手法や、オントロジー(概念を表す語彙をつなげたもの)を複数つなげるマッピング技術によって、高速での検索・出力ができるようにするなど、意味情報処理の実用化に役立つ技術の開発を進めています。

深層学習などの
計算がとて速い!
AIコンピューター



ゼミや研究室の運営はグローバルスタンダードに準拠することを目指しています

学生の声

研究室では特に決まったコアタイムが無く、学生はのびのびと研究に力を入れることができます。また、大学院生からは指導教員との個別面談があり、じっくり研究についてディスカッションできます。

ゼミでは一人一人の状況に合わせて、1人あたり平均で1時間程度、指導教員と議論します。

すべてまじめな話だと疲れてしまうのでゼミでは話が脱線することも多いです。研究を超えて学びのあるゼミが毎週展開されています。





研究室の合宿でブレインストーミング中のラムさん

経験は、コミュニケーション能力の向上につながり、将来のキャリアにおいても大きな財産です。現代のグローバルな課題解決に必要なスキルも身につけることができ、私の視野を大きく広げてくれました。

ヤマハ発動機でキャリアをスタートし、セキュリティエンジニアとしての経験を積んだ後、ダイナミックな市場であるアジアを含む国際舞台でIT専門家として活躍したいです。

Vol.7

国際的に活躍するIT専門家を目指して

チュオン ヴァン ラム(ベトナム出身)
情報学部情報科学科(2024年卒業)
2024年10月よりヤマハ発動機株式会社 勤務

静岡大学に進学したのは、ものづくりが盛んな浜松市の産業と関連して実践的に学べる情報学と、多様な文化的背景の人と交流できる国際的な環境に魅力を感じたからです。在学中は、認知科学と人工知能を用いた研究、特に、人間らしさを模倣したAIエージェントの開発に注力し、人間の感情や反応をどう理解し、適切に応答するかを解析しました。

ABPプログラムで多様な人々と協力した



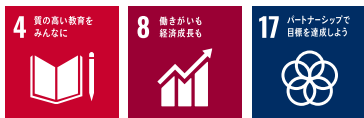
バインミー&コーヒー
ベトナムの人気No.1朝食



アジアブリッジプログラム(ABP)は、静岡県とアジア諸国の架け橋として活躍する人材を育成するため、企業や自治体と連携して、静岡大学で学ぶ留学生を応援しています。ご支援いただいている企業の皆様への感謝を込めて、活動をご報告します。



静岡大学では、持続可能な社会の実現を目指し、社会課題に多面的・戦略的にアプローチしています。今回は、本学と静岡理科大学で共同開催した国連大学学長の講演会をご紹介します。



AI時代の仕事・教育のあり方について国連大学長が講演「誰一人取り残さない、SDGs視点を持って見直しを」 サステナビリティセンター

国連大学のチリツィ・マルワラ学長の講演会「AIとSDGs:テクノロジーは雇用と教育をどのように形作るのか」が、昨年締結した本学と静岡理科大学の包括連携協定にもとづく活動の一環として、4月18日(木)に共同開催され、200名近い聴衆が熱心に耳を傾けました。マルワラ学長は、「AIにより仕事のあり方が今後大きく変化する中、新たなスキルを身につけられるよう、基礎教育や高等教育のあり方を根本から見直す必要がある。見直しの際、誰一人取り残さないためには、

SDGsの視点をもつことが重要だ」と指摘しました。

講演会終了後、マルワラ学長と、本学の日詰学長、静岡理科大学の木村学長などによる懇談が行われ、SDGs推進に向けた各大学の取り組みを共有し、今後の連携に向けて意見交換しました。



講演をするマルワラ国連大学長



木村静岡理科大学長(左から4人目)、日詰学長(左から6人目)



Shizudai Mini News



シズオカ・ルームで
完成お披露目会を
開催しました

静岡の身近な木と家具で彩られた教室 「シズオカ・ルーム」完成

人文社会科学部は、静岡のものづくりとその魅力を感じながら学べる教室「シズオカ・ルーム」を静岡キャンパスに設置しました。静岡市各地、沼津市戸田、伊豆天城から届いた10種類以上の樹種を活用した家具などを設置し、見て、触れて、利用して、学ぶことができる空間をつくりました。「ものづくり県しずおか」経済活性化のためのリカレント教育推進事業の一環として「ヨキカグ・プロジェクト」による総合的デザインで既存の教室を一部改修したものです。

5月17日に開催した完成お披露目会には、日詰一幸学長など本学関係者に加え、林業家、製材業者、家具職人など家具づくりに関わる

多くの方が出席し、静岡の多様な森づくりや森林と共生した社会のあり方に関心を向けるきっかけになれば、と期待を語りました。教室は授業や会議など多目的に利用されており、利用した学生たちからは「木の温かみを感じる」「開放的な雰囲気ですぐに学べます」などの声が上がっています。7~8月には、木の家具や小物などを通して森と人間の関係性を考える企画展を静岡キャンパス図書館のギャラリーで開催しました。



7~8月に静岡キャンパスの図書館ギャラリーで開催した企画展「しずおか家具の森」

情報危機管理コンテストで準優勝！

情報学部の学生チーム「itsawayaka」が「第19回情報危機管理コンテスト」で文部科学大臣賞(準優勝)、みずほリサーチ&テクノロジーズ賞をダブル受賞!メンバーの齊藤遼太さん(行動情報学科)が個人の最優秀にあたるJPCERT/CC賞を獲得しました。コンテストは顧客企業のセキュリティコンサルタントとなる設定で行われ、対応や報告書なども含めた現場対応の適切さが総合的に評価されて受賞に至りました。



写真右より:
岡野真空さん(情報学専攻2年)、
高橋陽拓さん(同専攻1年)、
吉田祐太さん(情報科学科4年)、
齊藤遼太さん(行動情報学科2年)

JASSO「地域イノベーション創出プログラム」で 海外留学中の社会経験を地域に還元へ

2024年度、JASSO(日本学生支援機構)の「海外留学支援制度」奨学金の採択を受け「地域イノベーション創出プログラム」を立ち上げました。これは、留学期間中に勉学のみならず、現地社会で実践的な活動(インターンシップやボランティアなど)を行い、帰国後に留学で得られた経験や知見を地域社会に還元するものです。授業では、専門家を招いてイノベーションの実践例や静岡が抱える課題の解説などを受けるとともに、学生のグループワークへの指導もいただきます。



駐日インド共和国大使が本学で講演 「さらなる連携を」学生たちに語る



駐日インド共和国大使のシビ・ジョージ閣下が7月9日に来学され、日詰一幸学長ほか教職員やインドからの留学生とともに、学術協力や学生・教員の交流などについて懇談しました。その後の講演会では多くの学生を前に、インドと日本の歴史的なつながりや産業的な関係の深さに触れながら、今後のさらなる連携の重要性について語りました。

「沼津イノベーションオフィス」開設 沼津信用金庫と地域連携を推進へ

沼津信用金庫との間で締結された「持続可能な地域社会構築に関する連携協定」に基づき、7月1日、「沼津イノベーションオフィス」を沼津信用金庫設置のまちづくりプラットフォーム「ぬましんCOMPASS」内に開設しました。開設を記念して、7月11日に開催された鈴木俊一同金庫理事長(写真右)と日詰一幸学長との懇談会では「戦後に全県民から資金援助が得られたおかげで静岡大学を開学できた。大学はその恩返しをする立場にある」と両者の結びつきが紹介されました。同オフィスは、主に産学連携を通じた地域連携推進を目的に運営されます。懇談では、産学連携の具体的な取組内容やリカレント教育の可能性についても意見が交わされました。



静大キャンパスミュージアム来館者1万人達成！

2021年4月1日にリニューアルしてから数えて1万人を突破しました。記念すべき瞬間は、5月21日、島田市立島田第一中学校2年生180人の皆さんの来館時に訪れました。後日、同中学を訪問して感謝状と記念品を贈呈し、塚越哲館長(理学部教授)による講演とタカチホヘビなどの収蔵品の展示を行いました。



【キャンパスミュージアム】
平日10時~16時開館/金曜定休・観覧無料

FMLしみずマリンパル 『日曜ネイチャーランド』に 本学教員が出演中！

月1回、第4日曜11時半頃から出演中!放送はサイマルラジオで全国どこからでもお聴きいただけます(同時放送のみ)。ぜひお聞きください。



WEB